

セッション 5 : ビノレルピンを含めた 3 剤併用化学療法

杉 尾 賢 二

産業医科大学第二外科

酒石酸ビノレルピン (ナベルピン : NVB) は, ビンカルカロイド系抗悪性腫瘍剤で, 非小細胞肺癌 (NSCLC) においては, NVB 単剤あるいは, シスプラチン (CDDP) などとの併用療法の有効性が認められている.

3 剤併用化学療法については, 2 剤併用療法に比較し毒性の発現が高度であり, かつ生存期間の延長は十分ではないことから, 臨床の場では標準治療とは言えない状況にある. しかしながら, 臨床試験としてイタリアの SICOG から, CDDP + NVB + GEM が CDDP + NVB, CDDP + GEM より生存期間の延長が得られることが示され, また, 日本においても, NVB + CDDP + MMC は, VDS + CDDP + MMC に比較し, 良好な予後を得たとの報告がある. したがって, 3 剤併用療法に関しては, いかにもその毒性を抑えて抗腫瘍効果を改善するかが課題であるが, NVB を含む 3 剤併用化学療法は NSCLC に対する有用な化学療法として位置づけられる可能性がある.

一方, 術前化学療法については, 1994 年に randomized phase III study が相次いで発表され, induction 群が手術単独と比較し, 有意に良好な予後が得られた. しかし, 2002 年, フランスでの phase III study では, III A 期に対する induction はそれほど有効ではないとする報告がなされた. しかしながら, これらはいずれも新規抗癌剤を用いたものではない.

このセッションでは, NVB を含めた 3 剤併用化学療法に関して, 進行 NSCLC に対する有効性および術前化学療法としての意義について報告していただいた.